

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	医療倫理学			共通・専門科目の別	共通
担当教員	茂木秀淳				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次	前期	15回	2単位	講義
授業の到達目標	1. 保健・医療・福祉の実践活動に必要な倫理原則、行動規範を理解し、説明できる。 2. 保健学の研究に必要な倫理原則、行動規範を理解し、説明できる。 3. 保健学研究、保健・医療・福祉の実践活動において生じた倫理問題について整理し、倫理原則、行動規範をどのように当てはめるかについて論述できる。 4. 倫理問題に関係する他者の立場、価値観を共感的に理解し、関係者と話し合い合意に達することができる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力				
授業科目の概要	我々日本人の考え方を作っている思想を歴史的に捉えるため、(1)日本固有の思想として神話に基づく神道、(2)外来思想として日本に影響を与えた仏教と儒教、(3)日本の近代化を促した西洋近代思想を概説し、その理解に基づいて、医療における現代的な諸問題、すなわち、インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死、脳死と臓器移植、出生前診断と遺伝病、遺伝子技術と認知症治療、伝染病・感染症の歴史的経過と現代の問題について、講義及び小グループによるディスカッションにより考察し理解を深める。				
授業計画	回	月日	内容		担当
	1	4/10	日本固有の思想(1) 日本神話概観、神話的思惟の特質、世界解釈の方法		茂木
	2	4/17	日本固有の思想(2) グループディスカッション及び小テスト		茂木
	3	4/24	仏教思想(1) 釈迦の説いたこと、日本における仏教受容の諸相、仏教的思惟の特質		茂木
	4	5/1	仏教思想(2) 他の東洋思想(儒教・道教)、グループディスカッション及び小テスト		茂木
	5	5/8	近世・近代の思想(1) 朱子学と国学、町人思想の諸相と職業観、西洋思想の受け入れ		茂木
	6	5/15	近世・近代の思想(2) グループディスカッション及び小テスト		茂木
	7	5/22	現代医学の諸問題(1) インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死		茂木
	8	5/29	現代医学の諸問題(1) グループディスカッション及び小テスト		茂木
	9	6/5	現代医学の諸問題(2) 脳死と臓器移植		茂木
	10	6/12	現代医学の諸問題(2) グループディスカッション及び小テスト		茂木
	11	6/19	現代医学の諸問題(3) 出生前診断と遺伝病		茂木
	12	6/26	現代医学の諸問題(3) グループディスカッション及び小テスト		茂木
	13	7/3	現代医学の諸問題(4) 遺伝子技術と認知症治療、伝染病・感染症の歴史的経過と現代の問題		茂木
	14	7/10	現代医学の諸問題(4) グループディスカッション及び小テスト		茂木
15	7/17	まとめと討論		茂木	
テキスト・参考図書	『古事記』、『論語』、大林太良『神話学入門』、中村元訳『ブッダのことば』、湯浅泰雄『日本人の宗教意識』、福沢諭吉『学問のすすめ』、新渡戸稲造『武士道』、宮川俊行『安楽死の論理と倫理』、今井通夫『生命倫理学入門』、その他随時紹介する。				
成績評価基準	試験(50%)、レポート(20%)、小テスト(30%)により総合評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	配布資料に目を通しておく			
	事後学習	新たに得た知識を整理しておく			
その他(履修上の留意点)	特記事項なし。				
キーワード	倫理学、保健学、科学技術倫理、生命倫理、東洋思想				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	多職種連携論	共通・専門科目の別	共通	
担当教員	星文彦 宮脇利幸 大町かおり 宮越幸代			
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	
必修	1年次	前期	15回	
	単位数	授業の方法		
	2単位	講義		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. Interprofessional Work;IPW(専門職連携実践)について、概念と理論を説明できる。 2. IPWの発展過程の概要を説明できる。 3. グループワークにおいて、チーム形成や議論に主体的に参加し、役割を果たすことができる。 4. 自らの業務や社会的課題をIPWの視点から分析考察し、問題点を説明できる。 5. 地域包括ケアにおける多職種連携の意義を説明できる。 			
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力			
授業科目の概要	Interprofessional Work;IPW(専門職連携実践)について、概念と理論、発展の歴史を学び、現在の地域包括ケアにおける多職種連携の役割について議論する。さらにグループワークを通して、実践に必要なチーム形成スキルやコミュニケーションスキルを習得し、自らの業務上の課題や社会的課題についてIPWの視点から分析考察し、その課題解決のために他職種と協働し検討する力を養う。さらに、事例検討を通して多職種連携における実践力を養う。			
授業計画	回	月日	内容	担当
	1	4/10	オリエンテーション、科目について担当教員と受講生との相互理解を図る	星
	2	4/17	IPWの概要と歴史について	星
	3	4/24	IPWの基盤となるヒューマンケアについて；専門分野や支援者・被支援者の関係性を越えて基盤となるヒューマンケア及び利用者中心主義について考える。	星
	4	5/1	保健医療におけるIPWの必要性について；保健医療においてIPWが求められる背景や多職種連携の持つコンピテンシーについて考える。	星
	5	5/8	IPWの仕組みについて；IPWの持つ二重構造や協働、チーム形成について考える。	星
	6	5/15	IPWにおけるファシリテーションスキル；チーム形成や問題解決に求められるファシリテーターの役割とスキルについて考える。	大町
	7	5/22	IPWにおける葛藤とリフレクションの意義；チーム形成及び問題解決に向けた過程での葛藤とリフレクションの重要性について考える。	宮越
	8	5/29	多職種連携について；地域包括ケアに求められるIPWについて考える。	宮脇
	9	6/5	グループワーク1：相互理解～他者紹介などを通して他者理解と説明スキルを学ぶ。KJ法を用いた問題解決法について学ぶ。	星
	10	6/12	グループワーク2：事例検討～院生の業務事例を通して多職種連携を検討する	星、大町、宮越
	11	6/19	グループワーク3：事例検討～院生の業務事例を通して多職種連携を検討する	星、大町、宮越
	12	6/26	グループワーク4：IPW研究論文考察	星、宮脇
	13	7/3	グループワーク5：IPW研究論文考察	星、宮脇
	14	7/10	グループワーク6：リフレクション～本科目修了にあたって自己の受講活動と自己の業務活動や社会活動を振り返る。	星
15	7/17	まとめ	星	
テキスト・参考図書	テキスト：指定しない 参考図書：IPWを学ぶ；利用者中心の保健医療福祉連携（中央法規出版社） Patient-Centered Medicine Transforming the Clinical Method(CRC Press)			
成績評価基準	グループワークでのプレゼンテーション・討議の内容（40%）及びレポート内容（60%）を総合評価する。			
授業時間外の学習情報	事前学習	IPWに関する事項を、職場や生活環境の中で検索情報収集すること。		
	事後学習	新たに得た知識を整理しておくこと。		
その他(履修上の留意点)	俯瞰的視点から自分自身の生活行動や社会情報を考察し、積極的な議論ができるように準備し授業に臨むこと。			
キーワード	IPW、保健医療福祉、地域連携、多職種協働、地域包括ケア、リハビリテーション、利用者中心主義			

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	医療コミュニケーション論			共通・専門科目の別	共通
担当教員	中島 八十一、井部 俊子、外里富佐江、川崎千恵、奥村信彦				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択	1年次	前期	15回	2単位	講義
授業の到達目標	1. 出来事を他人が理解できる日本語として記述できる。 2. 多くの人に分かりやすく日本語で話すことができる。 3. 他人の考えていることを正確に文書として記録できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力				
授業科目の概要	本講義の目的は、医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の理論と実践を体系的に学習することにより、医療・保健領域において患者、市民といったさまざまな個人・集団に向けて適切なコミュニケーションを可能にすることにある。その結果として医療・保健情報を正しく伝えるだけでなく、正しく情報収集することに役立つことにある。本講義では、医療、公衆衛生分野における効果的なコミュニケーションのために（1）コミュニケーションの基本理論（2）コミュニケーションの具体的方法とスキル（3）コミュニケーションの評価と分析方法等を対象とする。受講により職業人としてのコミュニケーション能力に格段の改善を図ることができる。				
授業計画	回	月日	内容	担当	
	1	4/6	医療コミュニケーション概論	中島	
	2	4/13	科学技術コミュニケーション-最新科学を一般の人に伝える。	中島	
	3	4/20	臨床コミュニケーション ①-疾病を患者・家族に理解させる。	中島	
	4	4/27	臨床コミュニケーション②-個人の病態を本人・家族に伝える。	井部	
	5	5/11	ヘルスライティング①-患者・家族に向けた支援文書作成	井部	
	6	5/18	ヘルスライティング②-保健医療文書の作成	中島	
	7	5/25	ヘルスライティング③-発表会・総合討論	中島	
	8	6/1	ヘルスコミュニケーション①-個人の行動変容を促すコミュニケーション	外里	
	9	6/8	ヘルスコミュニケーション②-集団の行動変容を促すコミュニケーション	川崎	
	10	6/15	ヘルスコミュニケーション③-他職種連携コミュニケーション	井部	
	11	6/22	ヘルスコミュニケーション④-外国人患者とのコミュニケーション	奥村	
	12	6/29	論文発表のための英語によるプレゼンテーションの基礎	中島	
	13	7/6	グループ組織のコミュニケーション	井部	
	14	7/13	患者・市民の啓発	外里	
15	7/20	まとめとグループ討論	中島		
テキスト・参考図書	Athena du Pre. Communicating about health - Current Issues and Perspectives, 5th ed. 2016				
成績評価基準	討議状況、プレゼンテーションの内容等の総合評価 評価配分：レポート80%、プレゼンテーションの内容等 20%				
授業時間外の学習情報	事前学習	医療コミュニケーションについて情報を検索し、基本的な用語の意味を知っておくこと。			
	事後学習	専門職としての自らの職分にあつて得た知識をどのように活用するか考えること。			
その他(履修上の留意点)	適切なコミュニケーションのために自らが日本語で話すこと、書くことに細心の注意を払うこと。				
キーワード	コミュニケーション、会話、文書作成、会議、日本語				

保健学研究科保健学専攻 シラバス案

授業科目	保健医療マネジメント論			共通・専門科目の別	共通
担当教員	井部 俊子 中島 八十一 水寄 知子				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択	1年次	前期	15回	2単位	講義
授業の到達目標	1. わが国における社会保障制度の特性を理解し、説明できる。 2. 人口減少時代における保健医療福祉制度・政策を説明できる。 3. 高度実践家にもとめられるマネジメント論について論述できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力				
授業科目の概要	本講義の目的は、人口減少の現代、保健医療領域で高度専門実践者として必要なマネジメントの知識を体系的に学ぶ。まず、わが国における保健医療制度・政策を理解し、保健医療に関連した法規と倫理を学ぶ。さらに、財務会計・管理会計と診療報酬制度・介護報酬制度を概観する。そして、保健医療福祉サービスを提供する人材開発・人材育成を学び、保健医療福祉における質を考察する。				
授業計画	回	月日	内容		担当
	1	4/6	人口減少時代における社会保障		中島
	2	4/13	医療制度・政策の基礎となる法令		中島
	3	4/20	福祉制度・政策の基礎となる法令		中島
	4	4/27	保健医療における看護師の役割と機能		中島
	5	5/11	保健医療における理学療法士・作業療法士の役割と機能		中島
	6	5/18	保健医療福祉における倫理Ⅰ：実践における倫理的課題と高度専門実践者の		水寄
	7	5/25	保健医療福祉における倫理Ⅱ：事例に基づいた討議		水寄
	8	6/1	医療機関の収入の仕組みと経営管理Ⅰ(診療報酬)		中島
	9	6/8	医療機関の収入の仕組みと経営管理Ⅱ(財務分析、経営管理)		中島
	10	6/15	福祉施設の収入の仕組みと経営管理Ⅰ(介護報酬)		中島
	11	6/22	福祉施設の収入の仕組みと経営管理Ⅱ(財務分析、経営管理)		中島
	12	6/29	医療の質保証と医療安全		井部
	13	7/6	人材開発と経験学習		井部
	14	7/13	リーダーシップとマネジメント		井部
15	7/20	組織開発の手法		井部	
テキスト・参考図書	テキスト：入山章栄, 世界標準の経営理論, ダイヤモンド社, 2019年 参考図書：リハビリテーション看護(改訂第2版)：障害をもつ人の可能性とともに歩む, 南江堂, 2015年, 酒井 郁子(編集), 金城 利雄(編集), 1章：中島八十一：リハビリテーション看護と法律				
成績評価基準	評価配分：レポート100%				
授業時間外の学習情報	事前学習	授業内容に関する文献を検索し、読んでおくこと。			
	事後学習	新たに得た知識を整理しておくこと。			
その他(履修上の留意点)	時事問題に関心を持ち、授業で発言すること。				
キーワード	保健医療制度、保健医療政策、マネジメント				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	応用統計学	共通・専門科目の別	共通	
担当教員	熊本 圭吾 林 邦彦 井手野 由季 長井 万恵			
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	
選択	1年次	前期	15回	
	単位数	授業の方法		
	2単位	講義		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学の基礎的な事項を理解し、説明できる。 2. 医学統計（疫学統計、生物統計）の概念と解析結果を理解し、説明できる。 3. 心理統計（多変量解析、尺度構成）の概念と解析結果を理解し、説明できる。 4. 表計算ソフト、統計解析ソフトを用いて、基本的な統計解析が行える。 			
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP② 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力			
授業科目の概要	本講義は、保健・医療分野において科学的根拠に基づいた実践を行うために、科学的情報の理解に必要な統計知識を習得すること、および保健医療分野の研究を進める上で有用となる統計処理が行えるようになることを目的とする。そのため、統計学の基礎を理解し、医学統計および心理統計の手法について学ぶとともに、表計算ソフトおよび統計解析ソフトによる統計解析の手順や出力結果の読み方についても学ぶ。			
授業計画	回	月日	内容	担当
	1	4/10	オリエンテーション データ処理と機器類の準備	熊本
	2	4/17	記述統計、尺度水準	熊本
	3	4/24	推測統計、検定の基礎	熊本
	4	5/1	医学統計・医学研究における統計学概説	林
	5	5/8	医学統計・観察研究の研究計画における統計学	林
	6	5/15	医学統計・観察研究のデータ解析における統計学	井手野
	7	5/22	医学統計・介入研究の研究計画における統計学	長井
	8	5/29	医学統計・介入研究のデータ解析における統計学	長井
	9	6/5	医学統計・メタアナリシス	井手野
	10	6/12	心理統計・テスト理論 信頼性	熊本
	11	6/19	心理統計・テスト理論 妥当性 項目の分析	熊本
	12	6/26	心理統計・尺度構成	熊本
	13	7/3	心理統計・質問紙調査 テキストマイニング	熊本
	14	7/10	心理統計・構造方程式モデリング	熊本
	15	7/17	まとめ 統計手法の適用	熊本
テキスト・参考図書	参考図書：「メタアナリシス入門 エビデンスの統合を目指す統計手法」丹後俊郎（朝倉書店）			
成績評価基準	授業において提示する課題の理解度と達成度を総合評価する。			
授業時間外の学習情報	事前学習	授業で指定するテキスト類を読了する。自身で使用可能なデータを授業用に準備する。		
	事後学習	授業で課された課題を行う。		
その他(履修上の留意点)	PCの基本的な操作はできること。			
キーワード	介入研究、観察研究、メタアナリシス、尺度、信頼性、妥当性			

保健学研究科保健学専攻 シラバス案

授業科目	医療英語研究			共通・専門科目の別	共通
担当教員	伊原 巧 奥村信彦 福谷保 外里富佐江 坂口けさみ				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次	前期	15回	2単位	講義
授業の到達目標	1. 大部分がギリシャ語またはラテン語に由来する英語の医学用語の構造的特徴を、音韻、形態素、語彙に関して理解し、説明できる。 2. 英語で書かれた疾病・疾病に関する文献を読むことができる。 3. 英語で書かれた医療分野の文献をESP (English for Specific Purposes : 特定の目的のための英語) の観点も踏まえ、構成と論理に注目しながら的確に理解し表現できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力				
授業科目の概要	医療・医学に関する英語テキストを講読し、その読解力を養うとともに、医療・医学に関わる基礎的・専門的知識およびその英語特有の規則等も学ぶ。特に前半は基礎的な内容の疾患・疾病に係る英語を、規則などにも注目して読んで理解し、後半は英語の文献検討力を養うため、リハビリテーション学と看護学に関する英語論文をクリティカルに読み、その内容を論理的かつ的確に発表できる力を養う。				
授業計画	回	月日	内容		担当
	1	4/6	医学用語の構成要素をつなぐ規則と、発熱と貧血に関する単語の語根、接頭辞、接尾辞を理解し、テキストの1. Feverと2. Anemiaに関するReading部分を読んで内容を理解する。		伊原
	2	4/13	ギリシャ語またはラテン語に由来する複数形の作り方と、脱水症と肥満に関する単語の語根、接頭辞、接尾辞を理解し、テキストの3. Dehydrationと4. Obesityに関するReading部分を読んで内容を理解する。		伊原
	3	4/20	頭痛と胸痛に関する単語の語根、接頭辞、接尾辞を理解し、テキストの5. Headacheと6. Chest Painに関するReading部分を読んで内容を理解する。		伊原
	4	4/27	咳と腹痛に関する単語の語根、接頭辞、接尾辞を理解し、テキストの7. Coughと8. Abdominal Painに関するReading部分を読んで内容を理解する。		伊原
	5	5/11	嚥下障害と聴力障害・難聴に関する単語の語根、接尾辞、接頭辞を理解し、テキストの9. Dysphagiaと10. Hearing Lossに関するReading部分を読んで内容を理解する。		伊原
	6	5/18	骨折と妊娠に関する単語の語根、接尾辞、接頭辞を理解し、テキストの11. Fractureと12. Pregnancyに関するreading部分を読んで内容を理解する。		伊原
	7	5/25	英語文献について、アブストラクト、本文、文献リストの構成および結論が導かれるプロセスを理解するとともに、ESPの観点から医療分野に特有の語彙、表現についても学ぶ。また、文献検索の方法も学ぶ。		奥村
	8	6/1	保健学分野の基本的な英語文献1編を読み、前回の内容を具体的に確認、理解する。		奥村
	9	6/8	前回扱った論文について授業担当者のプレゼンテーションを聴き、理解を深めるとともに、内容についてディスカッションする。		奥村
	10	6/15	理学療法学に関する英語文献を選択し、その研究論文の目的、研究計画、結果、考察のまとめ方を、語彙・表現をふくめてクリティカルに読み、内容を理解する。		奥村・福谷
	11	6/22	前回扱った論文についてグループによるプレゼンテーションを行い、相互に評価する。		奥村・福谷
	12	6/29	作業療法学に関する英語文献を選択し、その研究論文の目的、研究計画、結果、考察のまとめ方を、語彙・表現をふくめてクリティカルに読み、内容を理解する。		奥村・外里
	13	7/6	前回扱った論文についてグループによるプレゼンテーションを行い、相互に評価する。		奥村・外里
	14	7/13	看護学に関する英語文献を選択し、その研究論文の目的、研究計画、結果、考察のまとめ方を、語彙・表現をふくめてクリティカルに読み、内容を理解する。		奥村・坂口
15	7/20	前回扱った論文についてグループによるプレゼンテーションを行い、相互に評価する。		奥村・坂口	
テキスト・参考図書	テキスト・参考図書：テキスト:English for Medical Purposes, Step 1 日本医学英語教育学会編：Medical View 英語文献については適切かつ可能な限り新しいものを選択し、初回に配布する。 参考図書：「APAに学ぶ看護系論文執筆のルール」前田樹海・江藤裕之著：医学書院				
成績評価基準	評価配分：テキストのExercisesの解答提出40%(伊原) プレゼンテーションの内容を学生が相互に、また授業担当者が観点別に評価し、総合点を60%とする。(奥村)				
授業時間外の学習情報	事前学習	初回に配布される論文を事前に読んでおくこと。(奥村)			
	事後学習	毎週の復習としてExercisesの解答を提出すること。			
その他(履修上の留意点)	人体の構造と機能・疾病に関する医学英語の用語を覚えること。 初回に配布される論文を事前に読んでおくこと。				
キーワード	Medical English				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	保健医療教育論			共通・専門科目の別	共通
担当教員	土井 進、外里 富佐江、福谷 保、林 かおり				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次	前期	15回	2単位	講義
授業の到達目標	1. 学部での基礎教育、卒後教育、現任教育における保健医療教育の歴史の変遷、並びに保健医療教育の理論と実践についての知識を体系的・系統的に理解し、説明できる。 2. この理論と実践の往還作業を通して、保健医療教育論の系譜と今日的課題について説明できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④ 研究・教育活動により後進を育成する能力				
授業科目の概要	教育学の視点から保健医療専門教育の理論と実践の検証、古典にみる養生思想の現代的意義の考察に立って、今日の保健医療専門職教育の原理を探究し、教育技法、教材などについて理解を深める。				
授業計画	回	月日	内容	担当	
	1	4/6	保健医療教育における「目的・目標論」と「内容・方法論」	土井	
	2	4/13	保健医療教育における「教授の三角形」、教育者・学習者・保健医療の基礎的知識	土井	
	3	4/20	保健医療教育における看護の実践と理論	土井、林	
	4	4/27	保健医療教育における理学療法の実践と理論	土井、福谷	
	5	5/11	保健医療教育における作業療法の実践と理論	土井、外里	
	6	5/18	生涯学習社会における保健医療教育の役割	土井	
	7	5/25	貝原益軒の道德教育論と養生思想の現代的意義	土井	
	8	6/1	西洋における養生思想『サレルノ養生訓』の現代的意義	土井	
	9	6/8	仏教的人間像に見る「知の教師」・「情の教師」・「意の教師」	土井	
	10	6/15	いじめ問題への指導力を高める『塵劫記』の「三容器の協力関係」の問題	土井	
	11	6/22	内村鑑三が代表的日本人として評価した二宮尊徳の保健医療の実学思想	土井	
	12	6/29	「田定規」の問題を通して課題の把握、解法の発見、応用の問題解決の流れを掴む	土井	
	13	7/6	物心一如”もの”と”こころ”の相即の妙を”もの”を通して洞察する実物教育	土井	
	14	7/13	学生が主体的・対話的で深い学びを実現するアクティブ・ラーニングの開発	土井	
15	7/20	大学と地域社会が連携した保健医療教育の実践による大学院生の力量形成	土井		
テキスト・参考図書	テキスト：土井進『唐澤富太郎と教育博物館の研究』（2020）ジダイ社、土井進・塩原孝茂編著『実践から学ぶ総合的な学習の時間の指導と授業づくり』（2019）ジダイ社 参考図書：貝原益軒『養生訓・和俗童子訓』2001、岩波書店、大槻真一郎『サレルノ養生訓』とヒポクラテス医療の原点』2017、星雲社				
成績評価基準	毎授業時の事前事後学習200字原稿30枚の考察（50％）、800字小論文（50％）で総合評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	毎回、テキストの1章づつを読み、心に残った箇所を引用し、200字原稿に考察を書く。			
	事後学習	本日の授業による「まなび」を200字原稿に記述する。			
その他(履修上の留意点)	毎回、事前学習と事後学習の200字原稿をグループで読み合わせ、小コメントを相互に欄外に書き署名する。				
キーワード	保健医療教育論、教職倫理観、実践と理論				

保健学研究科保健学専攻 シラバス案 3次案

授業科目	保健医療教育実践論		共通・専門科目の別	共通	
担当教員	土井 進、外里 富佐江、福谷 保、林 かおり				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択	1年次	前期	15回	2単位	講義
授業の到達目標	1. 保健医療専門職を目指す人々を指導できる教育力を身に付けるために、保健医療教育の様々な実践事例における教育方法の特色を理解し、活用できる。 2. 実践事例における保健医療の専門知識と科学的な根拠を、保健医療教育実践の教材として再構成できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④ 研究・教育活動により後進を育成する能力				
授業科目の概要	学部での基礎教育、卒業後の教育、保健医療教育の歴史的変遷、ならびに保健医療教育の理論と実践について、実践例を通して学ぶ。 本講義では、保健医療の専門職養成機関において高度専門職の養成に当たる教育者に求められる、保健医療の専門的知識を教授できる指導力を身に付ける。				
授業計画	回	月日	内容	担当	
	1	4/10	シラバス(授業計画)作成の意義、授業の到達目標、ディプロマポリシーとの関連等	土井	
	2	4/17	総合的な学習の手法、大学院教育の目標を踏まえた保健医療教育の指導計画の作成	土井	
	3	4/24	保健医療専門科目における単元の指導計画、本時の指導過程	土井、外里、福谷、林	
	4	5/1	〃	土井、外里、福谷、林	
	5	5/8	保健医療専門科目における本時の指導案の作成、教材構成、板書計画、評価方法	土井、外里、福谷、林	
	6	5/15	〃	土井、外里、福谷、林	
	7	5/22	教育者の要件、温故知新、声・腰・脚、ソクラテスの青年との問答法	土井	
	8	5/29	保健医療教育実践におけるアクティブ・ラーニングの構想をグループで練り上げる。	土井	
	9	6/5	3種類の学習形態、個別学習形態・相互学習形態・一斉学習形態	土井	
	10	6/12	学習評価の三段階、診断的評価・形成的評価・総括的評価、到達度評価	土井	
	11	6/19	ルーブリック評価、パフォーマンス評価、省察による実践と理論の往還作業	土井	
	12	6/26	高度専門職を養成する教育者の力量、教材の本質・学生の内面がみえる慧眼	土井	
	13	7/3	保健医療を担う「高度専門職」を育成する上で欠かせない学生との「事上錬磨」	土井	
	14	7/10	直観の原理、自発性の原理、内発的動機づけの理論、練習(ドリル)の原理	土井	
15	7/17	自ら開発した各種教材を活用した模擬授業を1人15分実践する。	土井、外里、福谷、林		
テキスト・参考図書	テキスト：土井進『唐澤富太郎と教育博物館の研究』2020、ジダイ社、土井進・塩原孝茂編著『実践から学ぶ総合的な学習の時間の指導と授業づくり』2019、ジダイ社、 参考図書：貝原益軒『養生訓・和俗童子訓』2001、岩波書店、 大概真一郎『サレルノ養生訓』とヒポクラテス—医療の原点』2017、星雲社				
成績評価基準	毎授業時の事前事後学習200字原稿30枚の考察(50%)、800字小論文(50%)で総合評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	毎回、テキストの1章づつを読み、心に残った箇所を引用し、200字原稿に考察を書く。			
	事後学習	本日の授業による「まなび」を200字原稿に記述する。			
その他(履修上の留意点)	毎回、事前学習と事後学習の200字原稿をグループで読み合わせ、小コメントを相互に欄外に書き署名する。				
キーワード	保健医療教育実践論、シラバス(授業計画)、教育者の力量				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	保健医療研究法			共通・専門科目の別	共通
担当教員	熊本 圭吾 川崎 千恵 林 かおり 水寄 知子 林 邦彦 麻原 きよみ				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次	前期	15回	2単位	講義
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療分野における実践と研究との関連性を理解し研究の意義を述べることができる。 2. 研究に必要な過程を理解し述べるができる。 3. 研究における文献の意義を理解し、検索、入手し批判的に吟味することができる。 4. 研究方法の相違点を理解し、研究目的に合わせた適用について述べるができる。 5. 研究倫理について理解し、研究計画書作成における留意点を述べるができる。 				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP② 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力				
授業科目の概要	本講義は、保健医療分野の実践の場において研究活動を行うために必要となる基礎的な知識、態度、手順を修得することを目的とする。そのために、保健医療分野における研究を実践する上で活用される多様な研究法について紹介し、その基礎と特徴を学ぶ。また、保健医療分野における研究の過程について、研究テーマと研究デザインの検討、研究における倫理的配慮、研究の実施と報告までの一連の流れを学ぶ。				
授業計画	回	月日	内容	担当	
	1	4/10	授業の概要：研究の目的、実践との関連	熊本	
	2	4/17	エビデンスベースドメディスン (Evidence Based Medicine: EBM)	林 邦彦	
	3	4/24	責任ある研究活動：研究倫理と行動規範	熊本	
	4	5/1	文献検討の方法：文献の位置づけ、文献検索、論文の種類と構成	水寄	
	5	5/8	研究のプロセス、研究テーマ、研究デザイン	川崎	
	6	5/15	研究方法論1：実験研究の方法	林 かおり	
	7	5/22	研究方法論2：調査研究の方法	熊本	
	8	5/29	研究方法論3：疫学研究の方法	林 邦彦	
	9	6/5	研究方法論4：質的研究1 (定義と種類、プロセス、データ収集方法、評価基準)	麻原	
	10	6/12	研究方法論5：質的研究2 (インタビュー法)	麻原	
	11	6/19	研究方法論6：質的研究3 (参加観察法)	麻原	
	12	6/26	研究方法論7：質的研究4 (データの分析と解釈)	麻原	
	13	7/3	文献クリティークの方法	水寄	
	14	7/10	研究計画書：作成上の注意	熊本	
15	7/17	まとめ 研究の計画に向けて	熊本		
テキスト・参考図書	参考図書：現代の医学的研究方法：質的・量的方法, ミクストメソッド, EBP. メディカルサイエンスインターナショナル. 2012、ウヴェフリック. よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 第2版、医歯薬出版株式会社				
成績評価基準	プレゼンテーション (40%) 及びレポート (60%) により総合評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	参考図書に関連箇所を読んでくる。			
	事後学習	新たな知識を整理する。			
その他(履修上の留意点)	特になし				
キーワード	研究方法、文献検討、研究方法、研究デザイン、研究計画書				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	保健学総論			共通・専門科目の別	専門
担当教員	中島八十一、金物壽久、井部俊子、 外里富佐江 、坂口けさみ、高嶋孝倫、福谷保、熊本圭吾、川崎千恵、宮越幸代、星文彦、中村秀一、野見山哲生				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次	前期	15回	2単位	講義
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学、医療の動向を説明できる。 2. 看護学、リハビリテーション科学の学理と動向を理解し、説明できる。 3. 各発達段階における健康課題を理解し、説明できる。 4. 障害者の健康について説明できる。 5. 地域社会の健康課題について説明できる。 6. 多職種連携チームの構成、活動、マネジメントについて理解し、説明できる。 				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP② 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力				
授業科目の概要	「誰一人として取り残さない地域社会」の構築を志向する保健医療福祉関連職に必要となる基礎知識を学ぶ				
授業計画	回	月日	内容		担当
	1	4/6	今日の医学：生物医学の進歩とその臨床応用 現状と課題		中島
	2	4/13	今日の医療：EBM、生命医療倫理、患者中心医療、医療事故防止（ヒューマンエラー）		金物
	3	4/20	保健医療福祉制度と政策：制度の現在と課題ならびに政策の動向		中村
	4	4/27	看護学の現在		井部
	5	5/11	リハビリテーション科学の現在1；リハビリテーション医学、理学療法学、作業療法学		中島、福谷、 外里
	6	5/18	リハビリテーション科学の現在2：支援工学、ケースワーク、臨床心理		高嶋、熊本
	7	5/25	女性の健康：women's health、reproductive health		坂口
	8	6/1	小児・学童の健康：母子、児童、学校保健の現状と課題		
	9	6/8	働き世代の健康：産業医学・衛生、健診事業、労働安全、働き方改革、両立支援		野見山
	10	6/15	高齢者の健康：加齢と高齢者の心身機能特性		川崎
	11	6/22	障害者の健康：障害種別と障害特性、医学的、社会的、職業リハビリテーション		中島
	12	6/29	地域社会の健康：家族、住まい、住民の健康状態、自治体などによる健康増進活動		川崎
	13	7/6	災害と健康		宮越
	14	7/13	介護：介護保険制度、各種施設、介護保険外施設、利用者の現状と課題		中島
15	7/20	多職種協働：チームの構成、活動目標設定、プログラム管理、マネジメント		星	
テキスト・参考図書	テキスト：「健康科学」本間日臣、古谷博、丸井英二編集（医学書院）				
成績評価基準	レポート80%、グループワークの内容20%により総合評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	参考図書の関連箇所を読んでくる。			
	事後学習	新たな知識を整理する。			
その他(履修上の留意点)	特になし				
キーワード	保健学 障害科学 看護学 理学療法学 作業療法学				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	ケア提供システム特論	共通・専門科目の別	専門	
担当教員	井部 俊子 中島 八十一 水寄 知子			
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	
選択必修	1年次	前期	15回	
			単位数	
			2単位	
授業の方法	講義			
授業の到達目標	1. わが国における保健医療福祉の制度・政策を説明できる。 2. ケア提供システムを構築し、機能させるためのサービスマネジメントを論述できる。			
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④ 研究・教育活動による後進を育成する能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (ケア提供システム分野) A1 高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 A2 専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 A3 専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力			
授業科目の概要	わが国における保健医療福祉制度・政策を理解し、ケアの組織化を実践するために必要なサービスマネジメント論を学ぶ。さらに、地域包括ケアのコンセプトを実現し、顧客のニーズにもとづいたケア提供体制を構築し、リーダーシップを発揮し効率的なマネジメント手法を学ぶ。			
授業計画	回	月日	内容	担当
	1	4/6	人口減少時代の社会保障	中島
	2	4/13	保健医療福祉制度と政策	中島
	3	4/20	保健医療福祉に関連した法規	中島
	4	4/27	サービスマネジメント論	井部・水寄
	5	5/11	組織論と組織管理に関する基礎理論	井部・水寄
	6	5/18	組織論と組織管理についての現組織への適用と考察	井部・水寄
	7	5/25	人材育成とマネジメントに関する基礎理論	井部・水寄
	8	6/1	人材育成とマネジメント論の現組織への適用と考察	井部・水寄
	9	6/8	経営資源(人、物、金、情報)の管理と効率化に関する基礎理論	井部・水寄
	10	6/15	経営資源管理と効率化に関する現組織への適用と考察	井部・水寄
	11	6/22	提供するサービスの質の保証に関する基礎理論	井部・水寄
	12	6/29	提供するサービスの質の改善	井部・水寄
	13	7/6	地域包括ケアシステムの理念	井部・水寄
	14	7/13	多職種協働論	井部・水寄
15	7/20	まとめ	井部・水寄	
テキスト・参考図書	テキスト：日本の医療 制度と政策 [増補改訂版]，島崎謙治，東京大学出版会，2020			
成績評価基準	討議状況、プレゼンテーションの内容等の総合評価 評価配分：レポート80%、プレゼンテーションの内容等 20%			
授業時間外の学習情報	事前学習	組織管理について情報を検索し、資料等を読んでおくこと		
	事後学習	新たな知識を整理しておくこと		
その他(履修上の留意点)	組織管理に関連した記事、ニュースなど最新の社会的知見に触れ、積極的にディスカッションに参加できるよう心掛けること			
キーワード	保健医療制度、保健医療政策、人材育成、組織管理			

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	ケア提供システム演習 I	共通・専門科目の別	専門
担当教員	井部 俊子 水寄 知子		
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数
選択必修	1年次	後期	30回
			単位数
			2単位
			授業の方法
			演習
授業の到達目標	1. 医療サービスマネジメントに関連するリサーチクエストを明確にするステップを理解し、説明できる。 2. 様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 3. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 4. リサーチクエストに関連する先行研究のレビューができる。 5. 関連する文献のクリティークによって、医療サービスマネジメントに有用なエビデンスを検討できる。		
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④ 研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力(ケア提供システム分野) A1 高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 A2 専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 A3 専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力		
授業科目の概要	医療サービス・マネジメントに関連するリサーチクエストに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエストに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (井部俊子、水寄知子) (共同) 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。		
授業計画	回	内容	担当
	1～10	医療サービスマネジメントのリサーチクエストに沿った系統的文献レビュー	井部、水寄
	11～20	文献クリティーク(リサーチクエスト、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む)	井部、水寄
	21～25	医療サービスマネジメントにおける有用なエビデンスの検討	井部、水寄
	26～30	先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議	井部、水寄
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。		
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。		
授業時間外の学習情報	事前学習	関連文献を事前に概観したうえで授業に臨む。	
	事後学習	授業の中で疑問を感じたり、自身の知識が足りないと感じた事柄に関しては、テキストや文献等を通して復讐するよう取り組む。	
その他(履修上の留意点)	自主的に関連資料を収集し、課題解決のための自己学習に積極的に取り組む。		
キーワード	看護管理学、看護政策・行政、看護倫理学		

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	ケア提供システム演習 I	共通・専門科目の別	専門
担当教員	中島 八十一		
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数
選択必修	1年次	後期	30回
	単位数	授業の方法	
	2単位	演習	
授業の到達目標	1. 医療サービスマネジメントに関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。 2. 様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 3. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 4. リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 5. 関連する文献のクリティークによって、医療サービスマネジメントに有用なエビデンスを検討できる。		
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④ 研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (ケア提供システム分野) A1 高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 A2 専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 A3 専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力		
授業科目の概要	医療サービス・マネジメントに関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (中島八十一) 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。		
授業計画	回	内容	担当
	1～10	医療サービスマネジメントのリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー	中島
	11～20	文献クリティーク (リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む)	中島
	21～25	医療サービスマネジメントにおける有用なエビデンスの検討	中島
	26～30	先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議	中島
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。		
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。		
授業時間外の学習情報	事前学習	関連文献を事前に概観したうえで授業に臨む。	
	事後学習	授業の中で疑問を感じたり、自身の智識が足りないと感じた事柄に関しては、テキストや文献等を通して復讐するよう取り組む。	
その他(履修上の留意点)	自主的に関連資料を収集し、課題解決のための自己学習に積極的に取り組む。		
キーワード	リハビリテーション科学・福祉工学、脳計測科学、神経生理学、神経内科学、精神神経科学、		

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	ケア提供システム演習Ⅱ			共通・専門科目の別	専門
担当教員	井部 俊子 水寄 知子				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	1年次	後期	30回	2単位	演習
授業の到達目標	1. 医療サービスマネジメントに関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 医療サービスマネジメントに関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 医療サービスマネジメントに関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. 医療サービスマネジメントに関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④ 研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (ケア提供システム分野) A1 高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 A2 専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 A3 専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力				
授業科目の概要	医療サービス・マネジメントに関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (井部俊子、 水寄知子) (共同) 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。				
授業計画	回	内容			担当
	1～4	医療サービスマネジメントに関わる保健・医療・福祉の動向と現状の理解			井部、水寄
	5～8	医療サービスマネジメントに関する学問の動向の理解			井部、水寄
	9～16	医療サービスマネジメントに関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求			井部、水寄
	17～24	医療サービスマネジメントに関わる支援方法と課題の探求			井部、水寄
	25～30	医療サービスマネジメントに関わる実践・教育・研究・支援方法の課題発表および討議			井部、水寄
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	関連文献を事前に概観したうえで授業に臨む。			
	事後学習	授業の中で疑問を感じたり、自身の智識が足りないと感じた事柄に関しては、テキストや文献等を通して復讐するよう取り組む。			
その他(履修上の留意点)	自主的に関連資料を収集し、課題解決のための自己学習に積極的に取り組む。				
キーワード	看護管理学、看護政策・行政、看護倫理学				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	ケア提供システム演習Ⅱ			共通・専門科目の別	専門
担当教員	中島 八十一				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	1年次	後期	30回	2単位	演習
授業の到達目標	1. 医療サービスマネジメントに関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 医療サービスマネジメントに関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 医療サービスマネジメントに関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. 医療サービスマネジメントに関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④ 研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (ケア提供システム分野) A1 高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 A2 専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 A3 専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力				
授業科目の概要	医療サービス・マネジメントに関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (中島八十一) 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。				
授業計画	回	内容			担当
	1～4	医療サービスマネジメントに関わる保健・医療・福祉の動向と現状の理解			中島
	5～8	医療サービスマネジメントに関する学問の動向の理解			中島
	9～16	医療サービスマネジメントに関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求			中島
	17～24	医療サービスマネジメントに関わる支援方法と課題の探求			中島
	25～30	医療サービスマネジメントに関わる実践・教育・研究・支援方法の課題発表および討議			中島
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	関連文献を事前に概観したうえで授業に臨む。			
	事後学習	授業の中で疑問を感じたり、自身の智識が足りないと感じた事柄に関しては、テキストや文献等を通して復讐するよう取り組む。			
その他(履修上の留意点)	自主的に関連資料を収集し、課題解決のための自己学習に積極的に取り組む。				
キーワード	リハビリテーション科学・福祉工学、脳計測科学、神経生理学、神経内科学、精神神経科学、				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	人間発達ケア特論			共通・専門科目の別	専門
担当教員	外里富佐江、高嶋孝倫、坂口けさみ、宮脇利幸、 福谷保、林かおり、福田恵美子				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	1年次	前期	15回	2単位	講義
授業の到達目標	1. 人間の発達過程を述べることができる。 2. リプロダクティブヘルス・ライツに関する主要概念と臨床的課題について述べるができる。 3. 乳幼児期の発達において重視すべき課題について多様な側面から述べるができる。 4. 生涯発達の視点から青年期、成人期の発達課題について多様な側面から述べるができる。 5. 高齢期における発達課題と社会とのかかわりについて述べるができる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (人間発達ケア分野) B1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探索し、論理的に整理できる能力 B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力				
授業科目の概要	発達とは、分化 (Specialization) と統合 (Integration) が繰り返されて進展し、相互作用をもって特定の方向に向かう変化である。人間の発達とは、生物として地球上に存在し、社会の生活者として、心理・社会的任務を遂行しながら、未来に向けて生涯成長していくことである。 本講義は、妊娠・出産期における家族、母性、乳幼児期、青年期、成人期、高齢期それぞれの時期により迎える課題に対して、社会環境を含めて医学、看護、リハビリテーションの側面から講義し、科学的根拠に基づく研究につなげる。(オムニバス方式/全15回)				
授業計画	回	月日	内容		担当
	1	4/6	オリエンテーション 環境と人間発達		外里
	2	4/13	生涯発達の概要と青年期、成人期及における発達課題		外里
	3	4/20	肢体不自由を中心とした発達過程における障害の医学的理解		
	4	4/27	肢体不自由を中心とした発達過程における障害の支援機器論的理解		高嶋
	5	5/11	リプロダクティブヘルス・ライツにおける臨床的課題		坂口
	6	5/18	乳幼児期における発達課題①：健全な発達を支えること。		
	7	5/25	乳幼児期における発達課題②：障がいをもって生活すること。		
	8	6/1	青年期、成人期における発達課題①：青年期における発達課題(学校生活と心身の変化)		外里
	9	6/8	青年期、成人期における発達課題②：成人期における発達課題(産業保健的視点から)		福谷
	10	6/15	発達障害児支援の地域の取り組みの紹介①		福田
	11	6/22	発達障害児支援の地域の取り組みの紹介②		福田
	12	6/29	高齢期における発達課題①：心理機能、身体機能の低下や障害について		宮脇
	13	7/6	高齢期における発達課題②：高齢期の社会生活のあり方		宮脇
	14	7/13	発達過程における特徴的な感染症とその予防		林
	15	7/20	まとめ		外里
テキスト・参考図書	テキスト：適宜紹介する 参考図書：福田恵美子監修 人間発達学第5版 中外医学社				
成績評価基準	討議状況、プレゼンテーションの内容等の総合評価 評価配分：レポート80%、プレゼンテーションの内容等 20%				
授業時間外の学習情報	事前学習	生涯人間発達について情報を検索し、資料等に眼を通すこと。			
	事後学習	新たな知識を整理すること。			
その他(履修上の留意点)	新聞記事、ニュースなど最新の社会的な知見に触れ、積極的に議論できるように授業に臨むこと。				
キーワード	生涯人間発達 ウィメンズヘルス 障害科学 リハビリテーション 保健活動 環境				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）			共通・専門科目の別	専門
担当教員	福谷保				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	1年次	後期	30回	2単位	演習
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達過程における理学療法学に関連するリサーチクエストを明確にするステップを理解し、説明できる。 2. 様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 3. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 4. リサーチクエストに関連する先行研究のレビューができる。 5. 関連する文献のクリティークによって、理学療法に有用なエビデンスを検討できる。 				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力				
授業科目の概要	発達過程における理学療法学に関連するリサーチクエストに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエストに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (福谷保) 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。				
授業計画	回	内容			担当
	1～10	発達過程における理学療法学のリサーチクエストに沿った系統的文献レビュー			福谷
	11～20	文献クリティーク（リサーチクエスト、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む）			福谷
	21～25	発達過程における理学療法学における有用なエビデンスの検討			福谷
	26～30	先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議			福谷
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。			
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。			
その他(履修上の留意点)	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。				
キーワード	理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	人間発達ケア演習 I (理学療法学)			共通・専門科目の別	専門
担当教員	高嶋孝倫				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	1年次	後期	30回	2単位	演習
授業の到達目標	1. 発達過程における理学療法学に関連するリサーチクエストを明確にするステップを理解できる。 2. 様々な研究手法と特徴を理解できる。 3. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解できる。 4. リサーチクエストに関連する先行研究のレビューができる。 5. 関連する文献のクリティークによって、理学療法に有用なエビデンスを検討できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (人間発達ケア分野) B1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力				
授業科目の概要	発達過程における理学療法学に関連するリサーチクエストに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエストに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (高嶋孝倫) 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。				
授業計画	回	内容			担当
	1~10	発達過程における理学療法学のリサーチクエストに沿った系統的文献レビュー			高嶋
	11~20	文献クリティーク (リサーチクエスト、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む)			高嶋
	21~25	発達過程における理学療法学における有用なエビデンスの検討			高嶋
	26~30	先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議			高嶋
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。			
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。			
その他(履修上の留意点)	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。				
キーワード	生活支援技術、義肢装具、運動解析、福祉用具・支援機器				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）			共通・専門科目の別	専門
担当教員	福谷保				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	1年次	後期	30回	2単位	演習
授業の到達目標	1. 発達過程における理学療法学に関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 理学療法学に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 理学療法学に関わる実践・教育・研究の課題を探索できる。 4. 理学療法学に関わる支援方法について理解するとともに、課題について探索できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (人間発達ケア分野) B1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探索し、論理的に整理できる能力 B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力				
授業科目の概要	発達過程における理学療法学に関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (福谷保) 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。				
授業計画	回	内容			担当
	1～4	理学療法学に関わる保健・医療・福祉の動向と現状の理解			福谷
	5～8	理学療法学の動向の理解			福谷
	9～16	理学療法学に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探索			福谷
	17～24	理学療法学に関わる支援方法と課題の探索			福谷
	25～30	理学療法学に関わる実践・教育・研究・支援方法と課題発表および討議			福谷
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。			
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。			
その他(履修上の留意点)	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。				
キーワード	理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）			共通・専門科目の別	専門
担当教員	高嶋孝倫				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	1年次	後期	30回	2単位	演習
授業の到達目標	1. 発達過程における理学療法学に関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 理学療法学に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 理学療法学に関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. 理学療法学に関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (人間発達ケア分野) B1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力				
授業科目の概要	発達過程における理学療法学に関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (高嶋孝倫) 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。				
授業計画	回	内容			担当
	1～4	理学療法学に関わる保健・医療・福祉の動向と現状の理解			高嶋
	5～8	理学療法学の動向の理解			高嶋
	9～16	理学療法学に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求			高嶋
	17～24	理学療法学に関わる支援方法と課題の探求			高嶋
	25～30	理学療法学に関わる実践・教育・研究・支援方法と課題発表および討議			高嶋
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。			
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。			
その他(履修上の留意点)	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。				
キーワード	生活支援技術、義肢装具、運動解析、福祉用具・支援機器				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	人間発達ケア演習 I (作業療法学)			共通・専門科目の別	専門
担当教員	外里富佐江				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	1 年次	後期	30 回	2 単位	演習
授業の到達目標	1. 発達過程における作業療法学に関連するリサーチクエストを明確にするステップを理解し、説明できる。 2. 様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 3. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 4. リサーチクエストに関連する先行研究のレビューができる。 5. 関連する文献のクリティックによって、作業療法学に有用なエビデンスを検討できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (人間発達ケア分野) B1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力				
授業科目の概要	発達過程における作業療法学に関連するリサーチクエストに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエストに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (外里富佐江) 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。				
授業計画	回	内容			担当
	1~10	発達過程における作業療法学のリサーチクエストに沿った系統的文献レビュー			外里
	11~20	文献クリティック (リサーチクエスト、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む)			外里
	21~25	発達過程における作業療法学における有用なエビデンスの検討			外里
	26~30	先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議			外里
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。			
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。			
その他(履修上の留意点)	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。				
キーワード	作業療法の介入と効果、脳機能と作業療法、超高齢化社会における社会参加、メディカルスタッフによる多職種連携の効果				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	人間発達ケア演習 I (作業療法学)			共通・専門科目の別	専門
担当教員	宮脇利幸				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	1年次	後期	30回	2単位	演習
授業の到達目標	1. 発達過程における作業療法学に関連するリサーチクエストを明確にするステップを理解し、説明できる。 2. 様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 3. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 4. リサーチクエストに関連する先行研究のレビューができる。 5. 関連する文献のクリティークによって、作業療法学に有用なエビデンスを検討できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (人間発達ケア分野) B1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力				
授業科目の概要	発達過程における作業療法学に関連するリサーチクエストに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエストに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (宮脇利幸) 人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学、応用健康科学に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。				
授業計画	回	内容			担当
	1~10	発達過程における作業療法学のリサーチクエストに沿った系統的文献レビュー			宮脇
	11~20	文献クリティーク (リサーチクエスト、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む)			宮脇
	21~25	発達過程における作業療法学における有用なエビデンスの検討			宮脇
	26~30	先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議			宮脇
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。			
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。			
その他(履修上の留意点)	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。				
キーワード	リハビリテーション科学・福祉工学、応用健康科学				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）			共通・専門科目の別	専門
担当教員	外里富佐江				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	1年次	後期	30回	2単位	演習
授業の到達目標	1. 発達過程における作業療法学に関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 作業療法学に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 作業療法学に関わる実践・教育・研究の課題を探究できる。 4. 作業療法学に関わる支援方法について理解するとともに、課題について探究できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP② 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP③ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (人間発達ケア分野) B1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探究し、論理的に整理できる能力 B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力				
授業科目の概要	発達過程における作業療法学に関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (外里富佐江) 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。				
授業計画	回	内容			担当
	1～4	作業療法学に関わる保健・医療・福祉の動向と現状の理解			外里
	5～8	作業療法学の動向の理解			外里
	9～16	作業療法学に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探究			外里
	17～24	作業療法学に関わる支援方法と課題の探究			外里
	25～30	作業療法学に関わる実践・教育・研究・支援方法と課題発表および討議			外里
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。			
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。			
その他(履修上の留意点)	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。				
キーワード	作業療法の介入と効果、脳機能と作業療法、超高齢化社会における社会参加、メディカルスタッフによる多職種連携の効果				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）			共通・専門科目の別	専門
担当教員	宮脇利幸				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	1年次	後期	30回	2単位	演習
授業の到達目標	1. 発達過程における作業療法学に関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 作業療法学に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 作業療法学に関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. 作業療法学に関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP② 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP③ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (人間発達ケア分野) B1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力				
授業科目の概要	発達過程における作業療法学に関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (宮脇利幸) 人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学、応用健康科学に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。				
授業計画	回	内容			担当
	1～4	作業療法学に関わる保健・医療・福祉の動向と現状の理解			宮脇
	5～8	作業療法学の動向の理解			宮脇
	9～16	作業療法学に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求			宮脇
	17～24	作業療法学に関わる支援方法と課題の探求			宮脇
	25～30	作業療法学に関わる実践・教育・研究・支援方法と課題発表および討議			宮脇
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。			
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。			
その他(履修上の留意点)	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。				
キーワード	リハビリテーション科学・福祉工学、応用健康科学				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）			共通・専門科目の別	専門
担当教員	坂口けさみ、林かおり				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	1年次	後期	30回	2単位	演習
授業の到達目標	1. 発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連するリサーチクエストionsを明確にするステップを理解し、説明できる。 2. 様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 3. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 4. リサーチクエストionsに関連する先行研究のレビューができる。 5. 関連する文献のクリティークによって、母子・家族への看護に有用なエビデンスを検討できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (人間発達ケア分野) B1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力				
授業科目の概要	発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連するリサーチクエストionsに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエストionsに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (坂口けさみ、林かおり) 発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防(HIV含む)に関連する研究課題に取り組もうとする者に、研究・実務経験を活かして演習を行う。				
授業計画	回	内容			担当
	1~10	発達過程における母子・家族を中心とした看護学のリサーチクエストionsに沿った系統的文献レビュー			坂口
	11~20	文献クリティーク(リサーチクエストions、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む)			坂口
	21~25	発達過程における母子・家族を中心とした看護学における有用なエビデンスの検討			林
	26~30	先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議			坂口
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。			
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。			
その他(履修上の留意点)	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。				
キーワード	リプロダクティブヘルス・ライツ、母性看護学、助産学、感染症予防				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）			共通・専門科目の別	専門
担当教員	坂口けさみ、林かおり				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	1年次	後期	30回	2単位	演習
授業の到達目標	1. 母子保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 母子保健に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP② 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP③ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (人間発達ケア分野) B1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力				
授業科目の概要	発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連する研究課題について保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (坂口けさみ、林かおり) 発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防(H1V含む)に関連する研究課題に取り組もうとする者に、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。				
授業計画	回	内容			担当
	1~4	リプロダクティブヘルス・ライツに関わる母子保健・医療・福祉の動向と現状の理解			坂口
	5~8	リプロダクティブヘルス（性感染症）の動向の理解			林
	9~16	リプロダクティブヘルス・ライツに関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求			坂口
	17~24	リプロダクティブヘルス・ライツに関わる支援方法と課題の探求			坂口
	25~30	リプロダクティブヘルス・ライツに関わる実践・教育・研究・支援方法の課題発表および討議			坂口
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。			
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。			
その他(履修上の留意点)	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。				
キーワード	リプロダクティブヘルス・ライツ、母性看護学、助産学、感染症予防				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	健康コミュニティ特論		共通・専門科目の別	専門	
担当教員	川崎 千恵、熊本 圭吾、宮越 幸代、春原 るみ				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	1年次	前期	15回	2単位	講義
授業の到達目標	1. コミュニティにおける包摂的な (inclusive) 支援のあり方を述べるができる 2. コミュニティにおける包摂的な (inclusive) 支援を展開する上で必要な理論、方法論を述べるができる 3. コミュニティ・人々がもつ特性を述べるができる 4. コミュニティの健康課題と関連要因を述べるができる				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④ 研究・教育活動による後進を育成する能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (健康コミュニティ分野) C1 地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の向上のために、地域の現状を分析できる能力 C2 地域のニーズを的確に把握し、理論と統合して根拠に基づく実践を展開できる能力 C3 地域課題解決に向けて、根拠に基づき必要な施策を衛生行政に反映できる能力				
授業科目の概要	本講座では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な (inclusive) 支援や、コミュニティに暮らす人々 (特定集団) の健康への支援と、それらに関連する研究を行ううえで必要な理論と方法論を学修し、関心領域の研究につなげる。 プレゼンテーション演習を通して、特定のコミュニティ・対象集団についての理解を深め、コミュニティにおける包摂的な (inclusive) 支援の実践と協働のあり方、コミュニティの人々の健康に関連する社会的要因を考慮した支援のあり方などを探求する。				
授業計画	回	月日	内容		担当
	1	4/6	オリエンテーション		川崎
	2	4/13	コミュニティにおける包摂的な支援とは		熊本
	3	4/20	コミュニティと人々の特性 -多様性と多文化共生社会-		宮越
	4	4/27	コミュニティの人々の健康と社会的要因		川崎
	5	5/11	コミュニティの健康課題に基づく包摂的支援 -コミュニティ・アセスメントの理論、モデル、方法論等-		川崎
	6	5/18	コミュニティの健康課題に基づく包摂的支援 -事業化・施策化/施策提言-		川崎
	7	5/25	協働による包摂的支援 (1) -パートナーシップの形成-		宮越
	8	6/1	協働による包摂的支援 (2) -チーム・ビルディング-		宮越
	9	6/8	協働による包摂的支援 (3) -コミュニティの人々と資源を総動員したコミュニティ組織化とコミュニティオーガニゼーション-		熊本
	10	6/15	講義・事例検討 -在宅療養者・生活上困難を抱えた住民への包摂的な支援-		春原
	11	6/22	講義・事例検討 -関係機関や住民との協働による包摂的な支援-		川崎
	12	6/29	講義・事例検討 -災害時における協働と住民支援 (応急対策期・復興復旧期)		宮越
	13	7/6	プレゼンテーションのオリエンテーション		川崎、熊本、 宮越、春原
	14	7/13	演習 (プレゼンテーション準備)		〃
15	7/20	プレゼンテーション、ディスカッション、まとめ		〃	
テキスト・参考図書	参考図書：公衆衛生看護学テキスト2「公衆衛生看護技術」. 医歯薬出版. 2014、堀公俊他. チームビルディング-人と人を「つなぐ」技法-. 日本経済出版社. 2007、福原宏幸. 社会的排除・包摂と社会政策. 法律文化社. 2007、篠田道子. チームマネジメントの知識とスキル. 医学書院. 2011、真山達志他. 政策実施の理論と実像. ミネルヴァ書房. 2016、國井修. 災害時の公衆衛生-私たちにできること-. 南山堂. 2012、京極真, 信念対立解明アプローチ. 中央法規. 2012、吉浦輪. 地域における連携・協働 事例集-対人援助の臨床から学ぶIP-. 協同医書出版社. 2018、河野眞編. 地域包括リハビリテーション実践マニュアル. 羊土社. 2018、河野眞編. 国際リハビリテーション学-国境を越えるPT・OT・ST. 羊土社. 2016				
成績評価基準	グループワークでのプレゼンテーション・討議の内容 (40%) 及び課題レポートの内容 (60%) を総合評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	講義内容に関する知見を検索・整理すること。プレゼンテーションの準備を通して知識を広げ、自己の学習課題に気づくこと。			
	事後学習	事前学習と授業で講義内容に関する自己の知見を深め整理すること。プレゼンテーション、ディスカッションを通して知識の統合を行うこと。			
その他(履修上の留意点)	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。				
キーワード	コミュニティ、包摂的支援 (Inclusive support)、コミュニティ・アセスメント、協働、臨床科学、統計科学、社会福祉学				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	健康コミュニティ演習 I			共通・専門科目の別	専門
担当教員	川崎 千恵 熊本 圭吾				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	1年次	後期	30回	2単位	演習
授業の到達目標	1. コミュニティとそこに暮らす人々への支援に関連するリサーチクエストを明確にするステップを理解し、説明できる。 2. 様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 3. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 4. リサーチクエストに関連する先行研究のレビューができる。 5. 関連する文献のクリティークによって、コミュニティとそこに暮らす人々への支援に有用なエビデンスを検討できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④ 研究・教育活動による後進を育成する能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 C1 地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の向上のために、地域の現状を分析できる能力 C2 地域のニーズを的確に把握し、理論と統合して根拠に基づく実践を展開できる能力 C3 地域課題解決に向けて、根拠に基づき必要な施策を衛生行政に反映できる能力				
授業科目の概要	本講座では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な (inclusive) 支援や、コミュニティに暮らす人々 (特定集団) の健康への支援と、それらに関連するリサーチクエストに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエストに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 プレゼンテーション演習を通して、特定のコミュニティ・対象集団についての理解を深め、コミュニティにおける包摂的な (inclusive) 支援の実践と協働のあり方、コミュニティの人々の健康に関連する社会的要因を考慮した支援のあり方などを探求する。				
授業計画	回	内容			担当
	1	オリエンテーション			川崎、熊本
	2～6	関心のあるリサーチクエストに沿った系統的文献レビュー			川崎
	7～10	〃 プレゼンテーション			川崎
	11～16	文献クリティーク (リサーチクエスト、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む)			熊本
	17～20	〃 プレゼンテーション			熊本
	21	関心のあるリサーチクエストにおける有用なエビデンスの検討			川崎
	22～25	〃 プレゼンテーション			川崎、熊本
	26～29	先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議			川崎、熊本
	30	まとめ			川崎、熊本
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生のプレゼンテーションを主体として進める。			
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修することで、目標到達を目指す。			
その他(履修上の留意点)	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。				
キーワード	公衆衛生看護学、保健師現任教育、社会的包摂、健康の社会的決定要因、臨床心理学、統計科学、社会福祉学				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	健康コミュニティ演習Ⅱ			共通・専門科目の別	専門
担当教員	川崎 千恵 熊本 圭吾				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	1年次	後期	30回	2単位	演習
授業の到達目標	1. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援方法に関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援方法に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援方法に関わる実践・教育・研究の課題を探索できる。 4. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援方法について理解するとともに、課題について探索できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④ 研究・教育活動による後進を育成する能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (健康コミュニティ分野) C1 地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の向上のために、地域の現状を分析できる能力 C2 地域のニーズを的確に把握し、理論と統合して根拠に基づく実践を展開できる能力 C3 地域課題解決に向けて、根拠に基づき必要な施策を衛生行政に反映できる能力				
授業科目の概要	本演習では、健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的(inclusive)な支援策の開発や、効果的な支援方法に関連する研究課題について、既存の施策や実際の支援内容・支援方法を含めて幅広く理解する。そのうえで、学生自身の研究・実務経験を活かして、学生自身が関心をもつ対象集団に必要とされる支援策や支援内容・効果的な支援方法を、演習により探求する。				
授業計画	回	内容			担当
	1	オリエンテーション			川崎、熊本
	2~3	健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への施策の動向、現状と課題の理解			川崎
	4~5	〃 プレゼンテーション・ディスカッション			熊本
	6~10	健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援内容・支援方法に関する現状と課題の理解			川崎
	11~15	〃 プレゼンテーション・ディスカッション			熊本
	16~18	健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援内容と効果的な支援方法に関する研究の現状と課題の探求			川崎
	19~20	〃 プレゼンテーション・ディスカッション			熊本
	21~22	健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への必要な支援内容と効果的な支援方法の探求			川崎
	23~24	〃 プレゼンテーション・ディスカッション			熊本
	25~27	健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々に求められる支援策、必要とされる研究の探求			川崎
	28~29	〃 プレゼンテーション・ディスカッション			熊本
	30	まとめ			川崎、熊本
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	演習は、学生と教員とのディスカッション、学生のプレゼンテーション、フィールドでの演習により進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。			
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。			
その他(履修上の留意点)	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。				
キーワード	公衆衛生看護学、保健師現任教育、社会的包摂、健康の社会的決定要因、臨床心理学、統計科学、社会福祉学				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	保健学特別研究			共通・専門科目の別	専門
担当教員	井部俊子				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次～2年次	後期(1年次) 通期(2年次)	—	10単位	演習
授業の到達目標	1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP② 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④ 研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈ケア提供システム分野〉 A1 高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 A2 専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 A3 専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力				
授業科目の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 (井部俊子) 医療現場において人材育成及び組織を動かすことに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。				
授業計画	回	内容			担当
	1～30	研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請			井部
	31～78	研究の実施：調査・実験、データ収集			〃
	79～94	データ入力			〃
	95～110	データ解析と考察			〃
	111～142	論文作成			〃
	143～150	修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備			〃
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	研究計画を実行できていれば「水準にある(可)」、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある(良)」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができていれば「かなり上にある(優)」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している(秀)」と評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。			
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。			
その他(履修上の留意点)	日程については、個別相談の上調整する。				
キーワード	看護管理学、看護政策・行政、看護倫理学				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	保健学特別研究		共通・専門科目の別	専門	
担当教員	金物 壽久				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次～2年次	後期(1年次) 通期(2年次)	—	10単位	演習
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。 				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	<p>DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力</p> <p>DP② 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力</p> <p>DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力</p> <p>DP④ 研究・教育活動により後進を育成する能力</p> <p>DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力</p> <p>(人間発達ケア分野)</p> <p>B1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力</p> <p>B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力</p> <p>B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力</p>				
授業科目の概要	<p>研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 (金物壽久)</p> <p>肢体不自由を中心とした人間の発達過程における障害に関連する研究課題について、論文作成するための研究指導を行う。</p>				
授業計画	回	内容		担当	
	1～30	研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請		金物	
	31～78	研究の実施：調査・実験、データ収集		〃	
	79～94	データ入力		〃	
	95～110	データ解析と考察		〃	
	111～142	論文作成		〃	
	143～150	修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備		〃	
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	<p>研究計画を実行できていれば「水準にある(可)」、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある(良)」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができていれば「かなり上にある(優)」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している(秀)」と評価する。</p>				
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。			
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。			
その他(履修上の留意点)	日程については、個別相談の上調整する。				
キーワード	整形外科学、スポーツ科学、医療社会学、肢体不自由				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	保健学特別研究			共通・専門科目の別	専門
担当教員	中島 八十一				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次～2年次	後期(1年次) 通期(2年次)	—	10単位	演習
授業の到達目標	1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP② 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④ 研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (ケア提供システム分野) A1 高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 A2 専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 A3 専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力				
授業科目の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 (中島八十一) 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。				
授業計画	回	内容			担当
	1～30	研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請			中島
	31～78	研究の実施：調査・実験、データ収集			〃
	79～94	データ入力			〃
	95～110	データ解析と考察			〃
	111～142	論文作成			〃
	143～150	修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備			〃
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	研究計画を実行できていれば「水準にある(可)」、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある(良)」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができていれば「かなり上にある(優)」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している(秀)」と評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。			
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。			
その他(履修上の留意点)	日程については、個別相談の上調整する。				
キーワード	リハビリテーション科学・福祉工学、脳計測科学、神経生理学、神経内科学、精神神経科学、				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	保健学特別研究		共通・専門科目の別	専門	
担当教員	外里 富佐江				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次～2年次	後期(1年次) 通期(2年次)	—	10単位	演習
授業の到達目標	1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP② 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④ 研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力				
授業科目の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 (外里富佐江) 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域の研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。				
授業計画	回	内容			担当
	1～30	研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請			外里
	31～78	研究の実施：調査・実験、データ収集			〃
	79～94	データ入力			〃
	95～110	データ解析と考察			〃
	111～142	論文作成			〃
	143～150	修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備			〃
テキスト・参考図書	アメリカ心理学会. APA論文作成マニュアル 第2版. 医学書院. 2011 その他、随時紹介する。				
成績評価基準	研究計画を実行できていれば「水準にある(可)」、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある(良)」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができていれば「かなり上にある(優)」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している(秀)」と評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。			
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。			
その他(履修上の留意点)	日程については、個別相談の上調整する。				
キーワード	作業療法の介入と効果、脳機能と作業療法、超高齢化社会における社会参加、メディカルスタッフによる多職種連携の効果				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	保健学特別研究			共通・専門科目の別	専門
担当教員	坂口けさみ 林かおり				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次～2年次	後期(1年次) 通期(2年次)	—	10単位	演習
授業の到達目標	1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP② 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④ 研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力				
授業科目の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 (坂口けさみ) リプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防(HIV含む)に関連する研究課題について、論文作成するための研究指導を行う。 (林かおり) リプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防(HIV含む)に関連する研究過程において、調査・実験、データ収集、データ入力についての研究を補助する。				
授業計画	回	内容			担当
	1～30	研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請			坂口
	31～78	研究の実施：調査・実験、データ収集			林
	79～94	データ入力			林
	95～110	データ解析と考察			坂口
	111～142	論文作成			坂口
	143～150	修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備			坂口
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	研究計画を実行できていれば「水準にある(可)」、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある(良)」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができていれば「かなり上にある(優)」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している(秀)」と評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。			
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。			
その他(履修上の留意点)	日程については、個別相談の上調整する。				
キーワード	リプロダクティブヘルス・ライツ、母性・女性看護学、助産学、感染症予防				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	保健学特別研究			共通・専門科目の別	専門
担当教員	川崎 千恵				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次～2年次	後期(1年次) 通期(2年次)	—	10単位	演習
授業の到達目標	1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP② 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④ 研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (健康コミュニティ分野) C1 地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の向上のために、地域の現状を分析できる能力 C2 地域のニーズを的確に把握し、理論と統合して根拠に基づく実践を展開できる能力 C3 地域課題解決に向けて、根拠に基づき必要な施策を衛生行政に反映できる能力				
授業科目の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 (川崎千恵) 公衆衛生の視点から人々の健康への支援に関連する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。				
授業計画	回	内容			担当
	1～30	研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請			川崎
	31～78	研究の実施：調査・実験、データ収集			〃
	79～94	データ入力			〃
	95～110	データ解析と考察			〃
	111～142	論文作成			〃
	143～150	修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備			〃
テキスト・参考図書	アメリカ心理学会. APA論文作成マニュアル 第2版. 医学書院. 2011 その他、随時紹介する。				
成績評価基準	研究計画を実行できていれば「水準にある(可)」、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある(良)」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができていれば「かなり上にある(優)」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している(秀)」と評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。			
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。			
その他(履修上の留意点)	日程については、個別相談の上調整する。				
キーワード	コミュニティ、包摂的支援 (Inclusive support)、コミュニティ・アセスメント、協働				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	保健学特別研究		共通・専門科目の別	専門	
担当教員	福谷 保				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次～2年次	後期(1年次) 通期(2年次)	—	10単位	演習
授業の到達目標	1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP② 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④ 研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (人間発達ケア分野) B1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力				
授業科目の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 (福谷保) 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。				
授業計画	回	内容		担当	
	1～30	研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請		福谷	
	31～78	研究の実施：調査・実験、データ収集		〃	
	79～94	データ入力		〃	
	95～110	データ解析と考察		〃	
	111～142	論文作成		〃	
	143～150	修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備		〃	
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	研究計画を実行できていれば「水準にある(可)」、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある(良)」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができていれば「かなり上にある(優)」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している(秀)」と評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。			
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。			
その他(履修上の留意点)	日程については、個別相談の上調整する。				
キーワード	理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	保健学特別研究		共通・専門科目の別	専門	
担当教員	大町 かおり				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次～2年次	後期(1年次) 通期(2年次)	—	10単位	演習
授業の到達目標	1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP② 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④ 研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (人間発達ケア分野) B1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力				
授業科目の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 (大町かおり) 理学療法学の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドロームに関連した研究課題について、論文作成過程におけるデータ分析、文献検討などの研究指導を行う。				
授業計画	回	内容		担当	
	1～30	研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請		大町	
	31～78	研究の実施：調査・実験、データ収集		〃	
	79～94	データ入力		〃	
	95～110	データ解析と考察		〃	
	111～142	論文作成		〃	
	143～150	修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備		〃	
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	研究計画を実行できていれば「水準にある(可)」、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある(良)」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができていれば「かなり上にある(優)」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している(秀)」と評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。			
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。			
その他(履修上の留意点)	日程については、個別相談の上調整する。				
キーワード	理学療法学の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドローム				

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	保健学特別研究			共通・専門科目の別	専門
担当教員	水寄知子				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次～2年次	後期(1年次) 通期(2年次)	—	10単位	演習
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。 				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	<p>DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力</p> <p>DP② 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力</p> <p>DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力</p> <p>DP④ 研究・教育活動により後進を育成する能力</p> <p>DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力</p> <p>(ケア提供システム分野)</p> <p>A1 高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力</p> <p>A2 専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力</p> <p>A3 専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力</p>				
授業科目の概要	<p>研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。</p> <p>(水寄知子)</p> <p>医療現場においてケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。</p>				
授業計画	回	内容			担当
	1～30	研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請			水寄
	31～78	研究の実施：調査・実験、データ収集			〃
	79～94	データ入力			〃
	95～110	データ解析と考察			〃
	111～142	論文作成			〃
	143～150	修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備			〃
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	<p>研究計画を実行できていれば「水準にある(可)」、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある(良)」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができていれば「かなり上にある(優)」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している(秀)」と評価する。</p>				
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。			
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。			
その他(履修上の留意点)	日程については、個別相談の上調整する。				
キーワード	看護管理学、看護政策・行政、看護倫理学				